

1 . 平成 1 4 年度事業報告書

1 . 概 況

平成 14 年度は、会員減少が継続する中であって、前年度の学会運営検討委員会により打ち出された本会改革の方向を順次実現に結び付けてゆく年と位置付け、活発な活動を行った。

まず、会員状況であるが、個人会員は年度末で 24,342 名であり、年度当初から約 800 名の減となった。これは昨年度の減少幅とほぼ同じである。このうち正会員についてみると、退会届けにより明確な意思表示をして退会する人数が 1,695 名であり、昨年度より約 200 名増加した。退会する正会員の多くは産業界の会員であり、この結果、産業界と学界の正会員比率は以前の 7 対 3 から 6 対 4 に近づきつつある。賛助会員も 19 社 23 口の減少であった。

こうした状況をふまえて、昨年度の学会運営検討委員会を引き継ぐ形で企画政策委員会を発足させ、本会の長中期的な課題を実施に移す検討を行った。今年度の具体的な進展として次のような点を挙げる事ができる。

- 1) 教育関係の調査活動の強化を中心とする定款改訂が認可されたのに伴い、これに沿った役員選挙を実施した。また、教育の一環として、情報技術者の資質向上へ寄与することを目指して、アクレディテーション制度の充実および生涯教育と資格制度に取り組む体制の立ち上げを行った。
- 2) 各役員の担務に対応して執行責任を負う委員会を設けるという原則に沿った組織形態の整備を行った。具体的には、これまで欠けていた総務財務とイベント事業に対し、それぞれ総務財務運営委員会および事業推進委員会を設置し活動を開始した。
- 3) 電気・情報関連 5 学会のタスクフォース活動が終結し、学会間共通課題への対応のための連絡協議会を設置することになった。また、この活動を通じて、本会としての情報関係学会の連携および国際的情報発信に対する基本姿勢を検討した。

次に、個々の事業について主なトピックスを述べる。

会員に対する共通的なサービスとして、まず新しく和田英一編集長を迎えた会誌については、新しいシリーズ企画を加えて、役立つ会誌、読みやすい会誌の編集を行った。また、今年度から全面 Web 化した会告を補完するものとしてメール配信サービスを開始した。また、学会 Web サイトのデザインを更新すると同時に、会員からの意見を受けられるように会員の意見箱を設けた。

研究活動は、前年と同じ 32 研究会により活発な活動を展開した。その間、ユビキタスコンピューティングシステム研究会の来年度からの発足を決定した。また、長年議論されてきたジャーナルとトランザクションのあり方に対しては、論文誌編集委員会の中に研究会の委員も加わった特集企画グループを設けることで両論文誌の調和を図ってゆくことになった。このグループの役割は、ジャーナルの特集号の企画を論文誌編集委員会と研究会側が連携して行い、ひいては新規トランザクション発行計画に活かしてゆくことである。

IT 人材育成への貢献の面では、日本技術者教育認定機構（JABEE）の委託を受けて、電子情報通信学会および電気学会と共同で、はじめての本格認定の実施を行った。また、ソフトウェア工学および情報システム領域のアクレディテーション実施のための課題を調査した。技術者の会員を対象とした生涯教育については、本会内に生涯教育委員会を発足させ、主に企業環境面で十分な教育を受けていない技術者を対象とした教育のあり方を検討すると共に、工学系学会に共通の技術者生涯教育の枠組み作りの活動（PDE 協議会委員会）に参画した。

新しい行事としては、電子情報通信学会情報・システムソサイエティと共同で企画してきた情報科学技術フォーラムFITの第1回を9月25-29日に東工大大岡山キャンパスで無事開催した。プログラムは充実したものであったが、参加者の点で2学会合同開催の効果を発揮するのは今後の課題として残った。研究会のより大きな参画を得て、今後の成長を図ってゆく。一方、第65回全国大会は、ホットトピックスをテーマとした10の特別トラックを組むという新機軸を採り入れて、3月25-27日に東京工科大学で開催され、1,000件を超える講演申し込みと2,500名強の参加者を得て、盛会裏に終了した。

グローバル化の面では、国際的情報発信の活発化を目指して、英文論文誌の刊行とWebページの英文化の早期実現の検討を続けている。また、本会がリーダーシップをとって推進しているEntertainment Computingの活動を国際的に展開することに関しては、5月14-17日に幕張で国際ワークショップを開催し、それを実績としてIFIP内にSpecialist Groupという準備組織を発足させるところまでこぎつけた。

規格活動では、本会独自の学会試行標準の中で「符号化文字基本集合(BUCS)」を国際提案することになった。また、経済産業省からの委託による「汎用電子情報交換環境整備プログラム」の開発に対して、文字情報データベースの開発を本会で担当することになった。また、平成15年3月の第65回全国大会において特別トラックを企画し、バイオメトリクスなど4分野の標準化活動の紹介を行った。

最後に、学会運営の効率化の鍵となる学会マネジメントシステムの開発は、システム規模が当初の予測を大幅に超えたが、3月末で一応の完成を見た。また、全国大会の論文の電子投稿をアウトソーシングにより実施した。

2. 会 員

平成15年3月31日(平成14年度末)現在の会員状況は、次の通りである。(人)

	13年度末	入 会	退 会	除 名	14年度末
名誉会員	36	(正 名誉) 3	4		35
正 会 員	23,223	818 (学 正) 717	1,695 (正 名誉) 3	603	22,457
学生会員	1,903	858	231 (学 正) 717	8	1,805
準会員	44	7 (正 準) 0	5	1	45
会員合計	25,206	2,403	2,655	612	24,342
賛助会員	371	19	38		352
(上段:社数 下段:口数)	491	19	42		468

* 入会には復会、再入会を含み、退会には死亡退会を含む。

* 正会員には終身会員126名を含む。

2.1 入会促進・広報活動

- (1) 各活動の協力を得て下記の通り，入会促進ならびに広報活動に努めた。
 - ・研究発表会，シンポジウム，全国大会，FIT ほか共催・協賛・後援等の各種行事での入会促進
 - ・アカデミア・アドバイザー各メンバー協力による入会促進ならびに活動広報
 - ・活動案内パンフレットの見直しによる新規会員の入会促進
 - ・ソフトウェア関連企業への入会案内送付
 - ・メール配信サービスの充実による広報活動
 - ・学生会員から正会員への継続者に対する全国大会・FIT 聴講引換券等の無料配布
- (2) 平成 14 年 10 月 1 日（火）～ 5 日（土）幕張メッセで開催された CEATEC JAPAN にブースを設け，本会の活動を PR した。また，「e-Learning WORLD 2002」（東京ビックサイト）等の情報関連各種行事会場においても本会の活動を紹介した。

2.2 会員サービスの充実

- (1) 次項「3．電子化・情報発信」の推進により各種サービスの充実に努めた。
- (2) 会員からの意見を伺う「会員の意見箱」をホームページ上に設置した。
- (3) その他，Web 購読，メールフォワード，メール配信サービスなどの登録促進，ならびに，ホテル，レンタカー等会員優待サービスの拡充に努めた。

3．電子化・情報発信

3.1 電子化の推進

- (1) マネジメントシステムの開発を推進した。
- (2) 全国大会発表原稿の電子投稿をアウトソーシングにて実現した。
- (3) Web，メールサーバを再構築し，ファイヤーウォールの設置を行った。
- (4) コンピュータ博物館の充実を行った。
- (5) 外来者会議用無線 LAN を導入するとともに利用規程を制定した。

3.2 情報発信の推進

- (1) 学会ホームページのリニューアルを行った。
- (2) オンデマンド出版サービスに立ち読み機能を追加した。
- (3) メールニュースの運用規則を制定した。

4．会議の開催

4.1 第 44 回通常総会

平成 14 年 5 月 20 日（月）午後 4 時から 2 時間余にわたり，ホテル JAL シティ田町東京（東京都港区芝浦）において第 44 回通常総会を開催した。出席した代表会員および役員は 134 名であった（うち委任状による出席 59 名，定款第 39 条による総会成立定数 80 名）。定款第 36 条にもとづき鶴保会長を議長として，下記の議案を審議し異議なく承認した。

- 第 1 号議案 平成 13 年度事業報告について
- 第 2 号議案 平成 13 年度決算報告について
- 第 3 号議案 平成 14 年度事業計画について
- 第 4 号議案 平成 14 年度予算について

- 第 5 号議案 定款および一般規則の改訂について
- 第 6 号議案 会費滞納会員の取扱いについて
- 第 7 号議案 名誉会員について
- 第 8 号議案 平成 14 年度役員改選について

上記第 7 号議案の名誉会員には、長尾 真君、中田育男君、石田晴久君が推挙され、引き続き平成 13 年度功績賞が笈田 弘君、土居範久君、都倉信樹君の 3 名に贈呈された。また平成 13 年度論文賞が相澤 彰子君ほか 28 名（論文 9 編）に、Best Author 賞が大川恵子君ほか 9 名（記事 6 編）に、Best Editor 賞が戸内周夫君に、坂井記念特別賞が小林直樹君ほか 3 名にそれぞれ贈呈された。さらに、感謝状が、前編集長の石田晴久君、ならびに初回 SAINT 運営委員長 / 大会委員長の Ming T. Liu 氏に贈呈された。

総会終了後、和田英一編集長（名誉会員）の乾杯の音頭により懇親会を開き、元会長・副会長ほか多数の元役員、先輩を囲み会員一同の親交を深めた。

4.2 理事会

平成 14 年 4 月開催の第 474 回理事会以降、平成 15 年 3 月までに 11 回開催した。同年度内の役員は次の通りである（：平成 14 年 5 月新任）。

会 長	鶴保征城				
副 会 長	林 弘	安西祐一郎			
常務理事	荻野隆彦	真名垣昌夫	中田登志之	上原三八	
理 事	天野真家	加藤聰彦	辻井潤一	中島秀之	東野輝夫
	米田 茂	石田 亨	喜連川優	都倉信樹	丸山 宏
	宮部博史	村上篤道	山本 彰		
監 事	益田隆司	鈴木健二			

4.2 企画・政策委員会（詳細は学会 Web サイト「平成 14 年度学会運営に関する検討報告書」に掲載予定。）

本会活動の一層の充実・発展を図るべく、本会運営の向上および将来の新しい活動に通じる抜本的な企画・政策を検討し、中長期的な指針の策定・提言を行うことを目的に、平成 14 年度より常置委員会として設置され、年度内に 5 回開催した（委員長：林 弘、副委員長：安西祐一郎、ほか委員 11 名）。

今年度の主な検討事項は次の通りである。

- ・英文誌の発行の可能性 / ・ジャーナルとトランザクションの在り方 / ・関連学会との連携のあり方 / ・IT プロフェッショナルソサエティへの可能性 / ・FIT と全国大会の在り方 / ・アクレディテーション活動の本格施行に向けたサポート体制

4.3 総務・財務運営委員会

本会の一般規則に定める総務および財務担当理事の分掌事項に関する諸問題について財政面を含めた検討を行い、諸施策の提案・実施により運営の改善・向上を図ることを目的に、平成 14 年度より常置委員会として設置され、年度内に 6 回開催した（委員長：林 弘、ほか委員 4 名）。

今年度の主な検討事項は次の通りである。

- ・中長期的な財務予想への対応 / ・学会 Web 上の会員の声を聞くための窓口 / ・学会活動貢献賞の設置 / ・規格調査会の運営 / ・会員名簿の発行 / ・坂井記念特別賞の後継賞 / ・会費の一括徴収制度

4.4 電子化委員会

前項「3. 電子化・情報発信」を推進するべく年度内に 7 回開催した（委員長：米田 茂、副委員長：宮部博史、ほか委員 7 名）。

4.5 支部長会議

平成 14 年 7 月 24 日（水）および平成 15 年 1 月 23 日（木）に開催し、各支部の活動報告、本部 - 支部間の意見交換を行った。

4.6 フェロー制度委員会

フェロー制度のより良い改善と定着のために、年度中 1 回の会議を開き制度の改善を検討した。

5 . 表彰等（所属は選定当時）

5.1 功績賞

功績賞委員会（委員長：林 弘）において、平成 14 年度功績賞として下記 2 名を選定した。

米田英一 村岡洋一（早大）

5.2 フェロー

フェロー選定委員会（委員長：植村俊亮）において、本会フェローとして新たに下記 22 名を選定し、平成 15 年 3 月の第 65 回全国大会において認証状を授与した。

雨宮真人（九大）	岩野和生（日本 IBM）	岡田謙一（慶大）	亀田壽夫（筑波大）
菊野 亨（阪大）	木戸出正継（奈良先端大）	後藤滋樹（早大）	阪田史郎（NEC）
佐々木良一（東京電機大）	田中克己（京大）	谷口健一（阪大）	寺中勝美（NTT 西日本）
棟上昭男（東京工科大）	土居範久（慶大）	野崎昭弘（大妻女子大）	發田 弘（沖電気）
東田正信（NTT）	東野輝夫（阪大）	山田昭彦（科学博物館）	湯淺太一（京大）
弓場敏嗣（電通大）	米田政明（富山大）		

5.3 論文賞

論文賞委員会（委員長：辻井潤一）において、平成 14 年度論文賞として下記論文 8 編（25 名）を選定した。

- ・ df-pn アルゴリズムの詰将棋を解くプログラムへの応用 長井 歩，今井 浩（東大）
- ・ デバイスドライバとデバイスの一体設計手法への SpecC の適用性評価 本田晋也，高田広章（豊橋技科大）
- ・ 非循環グラフにおける支配関係の簡潔な検出算法 齋藤鐵男，鈴木 貢，渡邊 坦（電通大）
- ・ 異分野データベース群を対象とした意味的検索空間統合方式とその実現 石原冴子，清木 康（慶大）
- ・ Heterogeneous Multi-Computer System における重力効果を含む宇宙輻射流体計算 朴 泰祐（筑波大），牧野淳一郎（東大），須佐 元（立教大），梅村雅之（筑波大），福重俊幸（東大），宇川 彰（筑波大）
- ・ 地図と画像の融合によるレーン形状推定手法の提案 小島祥子，山田啓一，二宮芳樹（豊田中研）
- ・ 表題に基づく統計データの自動可視化手法 松下光範（NTT），米澤勇人（NTT 西日本），加藤恒昭（東大）
- ・ メディア空間による分散勤務者のコミュニケーション支援システム「e-office」 榊原 憲，加藤政美，田處善久，宮崎貴識（キヤノン）

5.4 坂井記念特別賞

坂井記念特別賞選定委員会（委員長：安西祐一郎）において、平成 14 年度坂井記念特別賞として下記 2 名を選定した（「 」内：研究開発の対象）。

楠本真二（阪大） 「定量的評価に基づくソフトウェア開発プロセス改善に関する研究」
中西英之（京大） 「仮想空間における人間エージェント間の社会的インタラクションに関する研究」

5.5 山下記念研究賞

各領域委員会が選定委員会となり、平成 14 年度山下記念研究賞として下記 20 編（20 名）を選定し、当該研究会の研究発表会またはシンポジウムにおいて表彰した。

(1) コンピュータサイエンス領域

- Web の受動的視聴のための同期化可能領域の発見と番組化用マークアップ言語 S-XML
[2000-DBS-121 (H12.5.25)] (データベースシステム研究会) 服部多栄子 (NHK)
- 最近接点の有意性の評価によるマルチメディア情報の効率的な検索法
[2000-DBS-122 (H12.7.27)] (データベースシステム研究会) 片山紀生 (情報学研)
- Web ブラウザのための安全なプログラム実行環境の実現 [2001-OS-87 (H13.6.29)]
(システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会) 品川高廣 (東大)
- セルベース設計における連続的トランジスタ寸法最適化による消費電力削減手法
[DA シンポジウム 2000 (H12.7.19)] (システム LSI 設計技術研究会) 橋本昌宜 (京大)
- テストパターン変換によるテスト時の消費電力低減手法 [DA シンポジウム 2001 (H13.7.25)]
(システム LSI 設計技術研究会) 梶原誠司 (九州工大)
- I-LIB:自動チューニング機能付き並列数値計算ライブラリとその性能評価 [2000 年記念並列処理
シンポジウム JSPP2000 (H12.5.30)] (ハイパフォーマンスコンピューティング研究会) 片桐孝洋 (電通大)
- Cluster-enabled OpenMP: ソフトウェア分散共有メモリシステム SCASH 上の OpenMP コンパイラ
[並列処理シンポジウム JSPP2001 (H13.6.6)] (ハイパフォーマンスコンピューティング研究会) 佐藤三久 (筑波大)
- Succinct Data Structures for Longest Common Prefix Information
[2002-AL-83 (H14.3.15)] (アルゴリズム研究会) 定兼邦彦 (東北大)

(2) 情報環境領域

- ID Cam: シーンと ID を同時に取得可能なイメージセンサ
[インタラクシオン 2002 (H14.3.6)] (ヒューマンインタフェース研究会) 松下伸行 (ソニー CSL)
- Migemo: 日本語のインクリメンタル検索
[2001-HI-94 (H13.7.19)] (ヒューマンインタフェース研究会) 高林 哲 (ソニー CSL)
- ベストエフォート型データに基づく医薬品臨床情報共有システムの提案
[2001-IS-77 (H13.6.24)] (情報システムと社会環境研究会) 刀川 眞 (NTT データ)
- 入力質問と知識ベースとの柔軟なマッチングに基づく対話的ヘルプシステム
[2001 年情報学シンポジウム (H13.1.18)] (情報学基礎研究会) 黒橋禎夫 (東大)
- FEC を用いた MPEG2 over IP システムの開発と評価 [2001-DSM-24 (H13.11.30)]
(分散システム/インターネット運用技術研究会) 大塚玉記 (日立ソフト)
- XML 複合文書の実現方式に関する一考察 [2001-DD-27 (H13.3.14)]
(デジタル・ドキュメント研究会) 野村直之 (法政大学エクステンションカレッジ)
- 動画像からの複数顔パターンを用いた個人認証 [コンピュータセキュリティシンポジウム 2001 (H13.10.31)]
(コンピュータセキュリティ研究会) 小坂谷達夫 (東芝)
- 2 色木によるオンライン証明書状態検証サーバの実装と評価
[2000-CSEC-9 (H12.5.10)] (コンピュータセキュリティ研究会) 安部謙介 (松下通信工業)
- 地図と画像の融合によるレーン形状推定方法の提案
[2001-ITS-4 (H13.3.2)] (高度交通システム研究会) 小島祥子 (豊田中研)

(3) フロンティア領域

- 音声補完: “TAB” on Speech
[2000-SLP-32 (H12.7.15)] (音声言語情報処理研究会) 後藤真孝 (産総研)
- 『日本語話し言葉コーパス』の設計の概要と書き起こし基準について
[2001-SLP-36 (H13.6.1)] (音声言語情報処理研究会) 小磯花絵 (国語研)
- 超流通技術に基づくアクセスログ管理方式の提案
[2000-EIP-8 (H12.6.2)] (電子化知的財産・社会基盤研究会) 河原正治 (筑波技術短大)

5.6 大会優秀賞・大会奨励賞

第64回全国大会（平成14年3月）優秀賞・奨励賞選定委員会（委員長：石田喬也）において、下記の通り選定し、平成15年3月の第65回全国大会において表彰した。

(1) 大会優秀賞（9名）

磯田佳徳（NTTドコモ）	太田雅敏（静岡大）	立石健二（NEC）
田森正紘（静岡大）	中村純平（農工大）	難波隆一（東大）
芳賀俊之（東大）	松田勝志（NEC）	三井浩康（電機大）

(2) 大会奨励賞（12名）

石井 裕（岡山県大）	梅島慎吾（電機大）	大芝 崇（NEC）
加藤 史（電機大）	須田聡子（農工大）	武田善行（豊橋技科大）
伊達宏昭（北大）	田端利宏（九大）	戸村豊明（旭川工業高専）
宮崎麗子（お茶の水女子大）	山田政寛（NTTコムウェア）	吉野 孝（和歌山大）

5.7 優秀教育賞

教育賞選定委員会（委員長：大岩 元）において、平成14年度優秀教育賞として下記1名を選定し、平成15年3月の第65回全国大会において表彰した。

堀内征治（長野工業高専）

5.8 優秀教材賞

教育賞選定委員会（委員長：大岩 元）において、平成14年度優秀教材賞として下記3名を選定し、平成15年3月の第65回全国大会において表彰した。

水野忠則（静岡大） 有賀妙子（同志社大） 吉田智子（京都ノートルダム女子大）

5.9 業績賞

業績賞選定委員会（委員長：林 弘）において、平成14年度業績賞として下記3件（8名）を選定した（「 」内：貢献業績，*：貢献者代表）。

- ・「大規模集積回路網の大域的求解法の開発とその実用化に関する研究」
*山村清隆（中央大），井上靖秋（東亜大）
- ・「仮名漢字変換技術の実用化研究と、それを実装した日本語ワードプロセッサの開発」
*天野真家，河田 勉（東芝），森 健一（東芝テック）
- ・「第3世代携帯電話W-CDMA用国際標準暗号の開発」
*松井 充，山岸篤弘，時田俊雄（三菱電機）

5.10 全国大会での感謝状贈呈

総務財務運営委員会（委員長：林 弘）において、本会の特定分野の運営，または会員サービスの向上等に関して、地道な貢献を行った者のうちから下記2名を選定し、平成15年3月の第65回全国大会において感謝状を贈呈した（「 」内：貢献対象）。

- ・大谷和子（日本総研） 「法律の専門家の立場からの本会著作権改訂に関する貢献」
- ・村山優子（岩手県立大） 「多年に渡る論文誌への査読貢献」

6 . 機関誌編集活動

6.1 会誌「情報処理」(月刊)

平成 14 年 4 月以降, 8 月を除く毎月 1 回編集委員会を開催し, 会誌「情報処理」第 43 巻 4 号から第 44 巻 3 号まで計 12 号(本文 1,414 ページ, 広告 134 ページ, 平均発行部数 24,620 部/号)を編集発行した。

本年度は和田新編集長のもと, 記事の構成およびレイアウトを工夫し, 役立つ会誌, 読みやすい会誌の編集を心がけた。本年度から新たに始まったシリーズに「プログラム・プロムナード」「とっきょの話」「モバイルは今」「20 世紀の名著名論」「アメリカ IT まわりの話題」があり, いずれも好評を博した。なお, Best Author 賞および Best Editor 賞の廃止を決定した。

特集号のテーマは次の通りである。

巻・号	特集テーマ	編集幹事
43. 4	インターネットと自動車	寺岡文男, 村井 純
	e-Learning の最前線	鈴木雅実, 永岡慶三
5	人工現実感手術室	永井明人, 室井克信
		高橋 隆
6	ユビキタスコンピューティング世界を実現する革新的ネットワーク技術	森岡澄夫, 森川直人
		青山友紀
7	セマンティック Web	高島洋典, 萩野達也
8	さまざまな次世代 GPS 測位方式	天野真家
9	失われゆく情報の復元・保存技術 - 人文科学における情報処理 (文献学・データベース共有・史料編纂) -	平井千秋, 山田奨治
10	失われゆく情報の復元・保存技術 - 人文科学における情報処理 (博物館・美術館・遺跡・埋蔵品) -	平井千秋, 山田奨治
11	ジャパングガビットネットワーク	江崎 浩
		高島洋典, 津田和彦
12	テキスト自動要約 - 知的活動支援の基本技術として -	久光 徹, 奥村 学
		増山 繁
	オープンソースソフトウェア	青山幹雄, 上野浩一郎
44. 1	人間支援のための分散リアルタイムネットワーク	天野真家, 土井美和子
2	ユーザビリティ・エンジニアリング	島袋 潤, 黒須正明
3	インフォメーションハイディング	村瀬一郎

4 月より会告の冊子を廃止し, 全面的に Web へ移行した。また, 5 月より印刷方式を CTP に変更し, これらにより印刷コストの削減を図った。

会誌のオンデマンド印刷サービス事業を軌道に乗せ, 立ち読み機能の追加および学会電子図書館からのリンクなど, 検索・購入しやすい環境を整えた。

会誌編集委員は次の通りである。

編集長 和田英一

理 事 天野真家, 丸山 宏, ほか委員 7 名

専門委員会

基礎・理論分野	主査：久光 徹，ほか 17 名
ソフトウェア分野	主査：有次正義，ほか 16 名
ハードウェア分野	主査：塩見彰睦，ほか 13 名
アプリケーション分野	主査：相原健郎，ほか 17 名
実務分野	主査：斉藤 功，ほか 7 名
書評・ニュース分野	主査：前川仁孝，ほか 18 名
コミュニケーション分野	主査：田代秀一，ほか 12 名

6.2 ジャーナル「情報処理学会論文誌」（月刊）

平成 14 年 4 月以降，毎月 1 回定例の編集委員会を開催し，「情報処理学会論文誌」第 43 巻 4 号から第 44 巻 3 号まで計 12 号（論文 304 編，テクニカルノート 13 編，本文 4,258 ページ，平均発行部数 5,780 部/号）を編集発行した。

- (1) ジャーナルの在り方および情報発信の在り方の検討（電子化含む）
ジャーナルの内容・形態・配布方式など，今後の在り方を検討した。
- (2) トランザクションとの連携と両論文誌の発行体制の強化
論文種別の整理（サーベイ論文の扱いなど），トランザクションの編集体制の改善，両論文誌の役割分担の明確化などを検討した。
- (3) 査読期間の短縮（電子投稿・査読方式の検討を含む）
査読期間短縮の効果が現れてきたので，さらにこれを推進するため，査読方法の改善，電子化，査読委員の見直し等を検討した。
- (4) ジャーナル編集委員会独自の企画の役割の明確化
特に特集の検討および見直しを行い，特集企画グループを新設した。
- (5) 次年度に論文査読管理システムの仕様検討を行う。

特集号のテーマは次の通りである。

巻・号	特集テーマ	編集幹事
43. 4	並列処理	天野英晴
5	システム LSI の設計技術と設計自動化	小栗 清
6	オブジェクト指向技術	大須賀昭彦，大西 淳
	システムソフトウェアの新しい潮流	亀田壽夫
7	音声言語情報処理とその応用	新田恒雄
8	電子社会に向けたコンピュータセキュリティ技術	岡本栄司
10	ゲームプログラミング	松原 仁
11	SAINT2002	Yuji Oie
	グループウェアとネットワークサービス	星 徹
	e-Japan 時代のインターネット/分散システムの構築・運用技術	林 英輔
12	インタラクション技術の革新と実用化	垂水浩幸
	次世代移動通信ネットワークとその応用	高橋 修
44. 2	コラボレーションアートとネットワークエンターテインメント	宗森 純，桧垣博章 片寄晴弘，重野 寛 村山優子，木原民雄
3	高速ネットワークとマルチメディアアプリケーション	滝沢 誠

論文誌編集委員は次の通りである。

委員長 辻井潤一

副委員長 石田 亨

委員

理論グループ 主査：白石洋一，ほか 18 名

基盤技術グループ 主査：小池汎平，ほか 44 名

応用グループ 主査：中小路久美代，ほか 34 名

ネットワークグループ 主査：宗森 純，ほか 21 名

6.3 トランザクション（研究会論文誌）

研究会編集のトランザクションを年度内に次の通り発行した。

論文誌名	巻・号	発行年月	論文数	頁数	発行部数	編集委員長
プログラミング (PRO15) (PRO16) (PRO17)	Vol.43, No.SIG 8	H14. 9	9	124	450	村上昌己
	Vol.44, No.SIG 2	H15. 1	3	47	450	
	No.SIG 4	H15. 3	6	82	450	
データベース (TOD14) (TOD15) (TOD16) (TOD17)	Vol.43, No.SIG 5	H14. 6	12	120	650	大山敬三 清木 康
	No.SIG 9	H14. 9	6	80	650	
	No.SIG12	H14.12	9	130	650	
	Vol.44, No.SIG 3	H15. 3	7	77	650	
数理モデル化と応用 (TOM 6) (TOM 7)	Vol.43, No.SIG 7	H14. 9	13	141	1,000	阿久津達也
	No.SIG10	H14.11	21	217	1,000	
ハイパフォーマンス コンピューティングシステム (HPS 5) (HPS 6)	Vol.43, No.SIG 6	H14. 9	22	243	850	中島 浩
	Vol.44, No.SIG 1	H15. 1	11	127	910	
コンピュータビジョンと イメージメディア (CVIM 4) (CVIM 5)	Vol.43, No.SIG 4	H14. 6	11	126	1,100	池内克史
	No.SIG 11	H14.12	15	148	1,200	

7 . 事業活動

7.1 全国大会

第 65 回全国大会（プログラム委員長：横井俊夫）を東京工科大学八王子キャンパスで開催した。

今大会では、講演申込の増加対策として通常の一般講演申込に加えて、ホットトピックスをテーマにした特別トラックを 10 本設け、さらに第 60 回全国大会で実施した学生セッションを復活させることで 1,043 件の申込を得ることができた。1,000 件を越す申し込みは、学会創立 40 周年記念大会の第 62 回全国大会以来である。また、今大会より講演申込に Web からの電子登録、電子投稿受付を導入した。

プログラム内容では、無料公開講演として講演者に篠田正浩氏（映画作家）、モンキーパンチ氏（漫画作家）、りんたろう氏（アニメ作家）を招いて「映画・アニメが進化する - デジタルで変わる映像表

現の世界 - 」というテーマで講演を頂き聴講者数約 850 名と好評を得た。また、IEEE-CS 会長の Steve Diamond 氏、今大会の会場となった東京工科大学学長の相磯秀夫氏からの招待講演，特別トラックそれぞれでミニ大会形式で招待講演，パネル討論，チュートリアル，アトラクション等多くのイベントを実施，さらにア krediteーションシンポジウムも行うなど，バラエティに富んだ盛り沢山な内容の大会となった。総参加者数も首都圏大会で 2 回連続 2,000 名を突破した。

第 65 回全国大会（平成 15 年）	
期 日	平成 15 年 3 月 25 日（火）～ 27 日（木）
会 場	東京工科大学八王子キャンパス
発表論文	1,043 件
参 加 者	2,524 名，うち非会員 674 名 （公開講演聴講者数 850 名）
大会スローガン	これからが IT 時代 - 第一期が終わり本格展開へ向けた第二期が始まる-
招待 / 公開講演	<ul style="list-style-type: none"> ・映画・アニメが進化する - デジタルで変わる映像表現の世界 - 司会：金子 満（東京工大） 講演者：篠田正浩（映画作家），モンキーパンチ（漫画作家），りんたろう（アニメ作家） ・ The IEEE Computer Society -Implementing the Vision- Steve Diamond（IEEE-CS 会長） ・ 大学改革と IT 人材の育成 相磯秀夫（東京工科大学学長）
特別トラック	<ul style="list-style-type: none"> (1) コピキタスコンピューティング - 都市と，家庭と，自動車内と - (2) IPv6 を基盤としたインターネットの新展開 (3) セマンティック Web と Web サービス (4) ウェアラブルコンピューティング (5) マイニングとサーチング - 情報洪水時代における情報発掘と情報検索- (6) 言語バリアフリー技術 (7) バーチャル・ヒューマン (8) デジタルコンテンツ制作と IT (9) 消費者のためのセキュリティ - 技術開発と普及活動- (10) e-Japan の進展 - 企業活動や社会生活に変革をもたらす電子政府・電子自治体- (11) 情報技術国際標準化
シンポジウム	<p>情報および情報関連分野のア krediteーション活動報告</p> <p>- IS 領域の試行審査を中心として-</p>

7.2 FIT2002 第 1 回情報科学技術フォーラム

平成 14 年 9 月 25 日（水）～ 28 日（土）に東京工業大学大岡山キャンパスにおいて第 1 回の FIT2002 を開催した。FIT では一般論文募集に加えて，新たに査読付き論文を導入し 371 件の申し込みがあり 127 件の論文が採録（採択率約 1/3）され，採録論文だけを集めた情報技術レターズ（Information Technology Letters）を発行した。イベント企画では，FIT 創立祝賀イベントを行い，文部科学省，経済産業省の審議官，日本の科学技術政策に関与している桑原総合科学技術会議議員，坂井衆議院議員を招いての祝辞，講演を，海外からはアランケイ博士に招待講演をいただいた。またこの他，情報系大型プロジェクトの紹介，パネル討論「我が国の製造業の空洞化にどう対処するか」，電子政府デモ，東工大企画など数多くの

イベントが催された。

また、船井情報科学振興財団から、船井業績賞をアランケイ博士に、査読付き論文より選ばれた3件の論文に対して船井ベストペーパー賞が贈呈された。

一般、査読付きを含めた講演の総件数は863件、総参加者数は1,817名と首都圏開催としては若干少なめとなった。原因としては、今回が第1回目の開催ということと、会議名を全く新しいものに変えたことで本フォーラムの認知度が低かったことが考えられる。今後は、さらに広報活動の強化を図り、周知、宣伝を積極的に行っていく必要がある。

FIT2002 第1回 情報科学技術フォーラム	
期 日	平成14年9月25日(水)～28日(土)
会 場	東京工業大学大岡山キャンパス
委 員	推進委員長：池田克夫(ISS,大阪工大),安西祐一郎(IPSJ,慶大) 実行委員長：中嶋正之(ISS,東工大) プログラム委員長：上林弥彦(IPSJ,京大)
発表論文	863件
参 加 者	1,817名,うち非会員 271名
祝賀イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・祝辞：文部科学省 間宮 馨(文部科学省文部科学審議官) ・祝辞：経済産業省 松井 英生(経済産業省商務情報産業局審議官) ・基調講演「New Frontiers for Practical Computing」 Alan Kay (Viewpoint Research Institute 所長) ・特別講演「日本産業の活性化に向けた科学技術政策」桑原 洋(総合科学技術会議議員) ・特別講演「デジタルアーカイブ政策について」坂井隆憲 (自民党デジタルアーカイブ小委員会委員長)
イベント企画 講演 パネル討論 デモ コンテスト シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・情報系大型研究プロジェクト紹介 ・講演「ビジネスモデリングメソッド」他 ・特別パネル「我が国の製造業空洞化にどう対処するか - 情報処理・通信産業の立て直し -」 ・パネル討論「本格化するTLOの現状と課題 - 先進的な取り組み事例にみる成功への鍵 -」他 ・電子政府デモ ・コンテスト「蓮根：目指せ世界一のピアニスト」他 ・JABEEシンポジウム「技術者教育と人材育成- 大学・企業・学会は何をなすべきか -」 ・東工大企画「IT 最前線」
船井業績賞 船井ベスト ペーパー賞	<ul style="list-style-type: none"> 船井業績賞 Alan Kay (Viewpoint Research Institute 所長) 船井ベストペーパー賞 ・組込みソフトウェア開発を対象とした高速ハードウェアシミュレーション手法 秋葉剛史,野々垣直浩,深谷哲司(東芝) ・Web Community Browser: Webコミュニティ構造の可視化と探索機構の実現 福地健太郎(東工大),豊田正史,喜連川 優(東大) ・柔軟な文書検索のためのコンパクトなデータ構造 定兼邦彦(東北大)

7.3 連続セミナー

平成 14 年度は、社会に情報処理技術を広めるため会員外にも参加を公募し、「次世代ネットワーク環境における基幹技術」を統一テーマとして、年度中に以下の通りセミナーを 4 回実施した（場所：工学院大学，参加者：111 名）。なお、連続セミナーは本会財政に貢献する事業の柱であるが、企画運営を事業理事が単独で担っているのが現状であり、担当理事の作業負担と財政的リスクが非常に大きいため、次年度以降は、講習会等業務委員会（委員長：前任事業理事，副委員長：後任事業理事，委員：財務理事 2 名，および委員長が指名する若干名）を新たに設けて運営していく。

	日 程	テ ー マ	コ ー デ ィ ネ ー タ
第 1 回	平成 15 年 1 月 28 日（火）	ユビキタスコンピューティング技術	中島秀之（産総研）
第 2 回	平成 15 年 1 月 29 日（水）	モバイルネットワーク技術	高橋 修（NTT ドコモ）
第 3 回	平成 15 年 2 月 18 日（火）	セキュリティ技術	佐々木良一（電機大）
第 4 回	平成 15 年 2 月 24 日（月）	ネットワークプロトコル技術	浅谷耕一（工学院大）

7.4 産業フォーラム

企業間あるいは産業・学界相互間での新しい情報技術の情報交換の場を提供することを主旨に、下記のテーマで年度間に 5 回開催した（参加者 163 名）。なお、e-コマースは石田コーディネータの申出により今年度をもって終了する。また、産業フォーラムは、主として産業界への本会活動の周知による入会促進を目的に、11 年度からテーマ、コーディネータ、破格の参加費が設定され、連続セミナーと同レベルの講師陣を迎え、毎回 30 名程度の出席者を得て、先端情報技術に関する情報交換を行っているが、今後の収益性や開催形態を検討する受皿組織がないことから、上記連続セミナー同様に講習会等業務委員会でその運営方法、企画等を検討する。

テ ー マ	日 程		コ ー デ ィ ネ ー タ
(1) ITS（第 7 回）	平成 14 年 5 月 13 日（月）	参加者 41 名	小花貞夫（KDDI）
(2) Web コンピューティング（第 4 回）	平成 14 年 6 月 13 日（木）	参加者 29 名	坂下善彦（湘南工科大）
(3) 情報家電（第 4 回）	平成 14 年 10 月 11 日（金）	参加者 29 名	丹 康雄（北陸先端大）
(4) e-コマース（第 2 回）	平成 14 年 11 月 8 日（金）	参加者 9 名	石田喬也（三菱電機）
(5) ITS（第 8 回）	平成 14 年 11 月 15 日（金）	参加者 55 名	小花貞夫（KDDI）

7.5 プログラミング・シンポジウム

プログラミング・シンポジウム委員会（委員長：和田英一）において次のシンポジウムを開催した。

- (1) 第 44 回プログラミング・シンポジウム（参加者 123 名）
平成 15 年 1 月 8 日（水）～10 日（金）
箱根ホテル小涌園
- (2) 夏のプログラミング・シンポジウム（参加者 31 名）
平成 14 年 9 月 18 日（水）～9 月 20 日（金）
下呂温泉 旅館瓢きん（岐阜県）
- (3) 情報科学若手の会（参加者 20 名）
平成 14 年 8 月 31 日（土）～9 月 2 日（月）
長陽山荘（熊本県）

7.6 協賛・後援等の活動

ロボット工学セミナー第 15 回シンポジウム「生体・生理・感性ロボティクスの最新動向」（日本ロボット学会主催，平成 14 年 7 月 26 日（金），工学院大学），ほか 104 件。

8 . 出版活動

8.1 著作権委員会

著作権について、共催問題、他学会論文投稿等の法的解決に向け、関連学会との協定に向け検討を行い、最終的な協定書案を作成した。

委員長 天野真家
副委員長 丸山 宏
委員 江原暉将，ほか 5 名

8.2 出版委員会

40 周年記念 CD-ROM の再販およびライセンス販売の可能性について検討を行った。また、情報フロンティアシリーズを次年度継続発行する。

委員長 天野真家
副委員長 丸山 宏

8.3 英文図書出版委員会

“Advanced Information Processing Technology”シリーズの編集を進め、“Advanced Lisp Technology”、“Nontraditional Database Systems”、“Domain Oriented Systems Development-Practices and Perspectives”の 3 巻を発行した。また、Taylor & Francis 社との契約が切れたため、オーム社と新たに契約を結び、次年度継続発行する。

委員長 齊藤忠夫
幹事 近山 隆
委員 伊藤 潔，ほか 9 名

8.4 教科書編集委員会

“IT Text”シリーズの編集を進めた。第 11 巻「情報と職業」まで発行した。

委員長 松下 温
幹事 阪田史郎，福井一夫
委員 伊藤 潔，ほか 7 名

8.5 歴史特別委員会

- (1) 平成 14 年 8 月に学会 WWW「コンピュータ博物館」のリニューアルを行った。さらに、対象機器の拡大等を含めたりリニューアルを平成 15 年度にかけて行うこととした。また、日本のコンピュータパイオニアの英文化作業を開始した。
- (2) 国立科学博物館から調査研究の委託を受け、「オフィスコンピュータ歴史調査小委員会」を設置し、「オフィスコンピュータの歴史調査と技術の系統化に関する調査」報告書を作成・提出した。
- (3) 43 巻 10 号より会誌に「日本の情報処理技術の足跡」の連載を開始した。
- (4) オーラルヒストリーの掲載に向けて収集作業を開始した。

委員長 高橋 茂
幹事 松永俊雄
委員 旭 寛治，ほか 7 名

9 . 調査研究活動

9.1 調査研究運営委員会

学会活動の核でもある調査研究活動を活性化するため、研究会活動の一環として研究会による論文誌（トランザクション）の編集を行った（内容は機関誌編集活動の項に掲載）。

また、ジャーナルとトランザクションのあり方について、論文誌（ジャーナル）編集委員会と連携しつつ議論を行い。平成 15 年度より論文誌（ジャーナル）編集委員会内に設置される特集企画グループへ委員を推薦した。

一方、領域および研究会の運営方法、シンポジウムのサービス選択制度の見直し等、特に多様化してゆく研究会活動とその収支方法などについて議論をしつつ、新規分野の開拓等を行った。また、学会活動における関連事業、特に領域委員会を通じて全国大会への協力を行い、FIT への協力体制についても見直しのための議論を行った。

委員は次のとおりである。

委員長	萩谷昌己				
理事	喜連川優	都倉信樹	中島秀之		
委員	鯨坂恒雄	石畑 清	竹林洋一	田中 讓	富田悦次
	中島 浩	野寺 隆	橋田浩一	平田圭二	

(1) 領域委員会 (3)

各領域委員会ごとに委員会を開催し、領域および研究会の運営方法の充実を図るとともに、関連する学会活動と連携しつつ当該領域ならびに関連分野に関しての研究会活動の活性化を図った。特に研究会活動の多様化と適切な収支方法に関する議論を行った。

また、全国大会や FIT へはプログラム委員等を選出するなど協力を行った。

- | | |
|-------------------------------|----------|
| 1) コンピュータサイエンス領域委員会 (年 3 回開催) | 委員長 野寺 隆 |
| 2) 情報環境領域委員会 (年 3 回開催) | 委員長 田中 讓 |
| 3) フロンティア領域委員会 (年 3 回開催) | 委員長 平田圭二 |

(2) 研究会 (32)

研究会名	英文略称	主査 (運営委員数)	登録者数	発表回数(件)
< コンピュータサイエンス領域 >				
データベースシステム	DBS	清木 康 (36)	513	3(115)
ソフトウェア工学	SE	青山幹雄 (44)	514	4(63)
計算機アーキテクチャ	ARC	笠原博徳 (37)	382	5(94)
システムソフトウェアとオペレーティング・システム	OS	石川 裕 (32)	339	3(50)
システム LSI 設計技術	SLDM	寺井秀一 (37)	341	4(73)
ハイパフォーマンスコンピューティング	HPC	関口智嗣 (29)	407	4(83)
プログラミング	PRO	村上昌己 (28)	409	5(57)
アルゴリズム	AL	徳山 豪 (31)	317	6(65)
数理モデル化と問題解決	MPS	城 和貴 (31)	323	5(68)

< 情報環境領域 >				
マルチメディア通信と分散処理	DPS	東野輝夫 (48)	505	5(110)
ヒューマンインタフェース	HI	増井俊之 (49)	546	5(50)
グラフィクスとCAD	CG	斎藤隆文 (27)	391	4(57)
情報システムと社会環境	IS	神沼靖子 (23)	299	4(31)
情報学基礎	FI	仲尾由雄 (25)	275	4(51)
オーディオビジュアル複合情報処理	AVM	八島由幸 (20)	220	4(89)
**グループウェアとネットワークサービス	GN	星 徹 (37)	364	4(64)
分散システム/インターネット運用技術	DSM	箱崎勝也 (33)	387	4(43)
デジタル・ドキュメント	DD	大野邦夫 (16)	251	6(31)
モバイルコンピューティングとワイヤレス通信	MBL	高橋 修 (38)	439	4(96)
コンピュータセキュリティ	CSEC	岡本栄司 (32)	382	4(108)
高度交通システム	ITS	松下 温 (26)	244	4(66)
* 高品質インターネット	QAI	尾家祐二 (22)	153	4(57)
* システム評価	EVA	福田 晃 (18)	154	3(21)
< フロンティア領域 >				
自然言語処理	NL	島津 明 (27)	540	6(132)
知能と複雑系	ICS	沼尾正行 (27)	448	5(137)
コンピュータビジョンとイメージメディア	CVIM	池内克史 (42)	537	5(96)
コンピュータと教育	CE	川合 慧 (33)	540	5(48)
人文科学とコンピュータ	CH	加藤常員 (21)	306	4(36)
音楽情報科学	MUS	小坂直敏 (27)	339	5(79)
音声言語情報処理	SLP	小林哲則 (28)	314	5(94)
電子化知的財産と社会基盤	EIP	安田 浩 (17)	230	4(39)
ゲーム情報学	GI	松原 仁 (20)	247	2(15)
合 計		(961)	11,656	139 (2,218)

* 新設 **名称変更

(3) 研究グループ(3) (詳細:省略)

研究グループ名	英略称	主 査	発表会回数(論文数)	記 事
< 情報環境領域 >				
知的都市基盤	ICII	中島秀之	2(57)*合同1回	
情報家電コンピューティング	IAC	徳田英幸	3(27)	他にワークショップ共催
放送コンピューティング	BCC	水野忠則	3(59)*合同2回	他にシンポジウム

9.2 シンポジウム・講習会等(23回)

題名	研究会名略称	開催期日/場所	参加者	演題数
並列処理シンポジウム JSPP2002	ARC,OS,AL, PRO,HPC	H14. 5. 29 (水) ~ 31 (金) エポカルつくば	272名	65件
マルチメディア,分散,協調とモバイル (DICOMO 2002)シンポジウム	DPS,GN,DSM, MBL,CSEC,ITS QAI	H14. 7. 3 (水) ~ 5 (金) 土肥温泉桂川シーサイドホテル	250名	143件
DA シンポジウム 2002	SLDM	H14. 7. 22 (月) ~ 24 (水) 遠鉄エンパイヤホテル(浜松)	163名	47件
情報システムの再構築と ERP ワークショップ	IS	H14. 7. 27 (土) 大和総研	48名	?件
画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2002)	CVIM	H14. 7. 30 (火) ~ 8. 1 (木) 名古屋工業大学	354名	145件
情報教育シンポジウム	CE	H14. 8. 21 (水) ~ 23 (金) 関西学院 千刈セミナーハウス	108名	39件
オブジェクト指向 2002 シンポジウム	SE	H14. 8. 28 (水) ~ 30 (金) 日本科学未来館	239名	42件
第7回ヒューマンインタフェース プロフェッショナルワークショップ	HI	H14. 9. 20 (金) ~ 21 (土) 神戸市立ルーツ・ファクトリー	33名	?件
人文科学とコンピュータシンポジウム 2002	CH	H14. 9. 20 (金) ~ 22 (日) 大阪市立大学	110名	55件
モバイルコンピューティングと ワイヤレス通信シンポジウム 2002	MBL	H14. 10. 4 (金) 産業技術総合研究所	78名	6件
マルチメディア通信と分散処理 ワークショップ	DPS	H14. 10. 23 (水) ~ 25 (金) 湯の川グランドホテル	81名	53件
コンピュータセキュリティ シンポジウム 2002	CSEC	H14. 10. 30 (水) ~ 11. 1 (金) 盛岡マリオス	196名	81件
ゲームプログラミングワークショップ	GI	H14. 11. 15 (金) ~ 17 (日) 箱根セミナーハウス	54名	28件
コンピュータシステム・シンポジウム	OS	H14. 11. 19 (火) ~ 20 (水) パシフィコ横浜	52名	20件
データベースと Web 情報システムに 関するシンポジウム(DBWeb2002)	DBS	H14. 12. 3 (火) ~ 4 (水) アーク都市塾	164名	62件
エンターテインメント コンピューティングワークショップ	GI	H15. 1. 13 (月) ~ 15 (水) コスモスクエア国際交流センター	126名	31件
2003年情報学シンポジウム	FI	H15. 1. 16 (木) ~ 17 (金) 日本学術会議講堂	100名	36件
M P S シンポジウム	MPS	H15. 1. 16 (木) ~ 17 (金) 同志社大学	56名	47件
高度交通システム 2003 シンポジウム	ITS	H15. 1. 17 (金) 慶應義塾大学	94名	7件
2003年ハイパフォーマンスコンピューティング と計算科学シンポジウム(HPCS2003)	HPC	H15. 1. 20 (月) ~ 21 (火) みらい CAN ホール	82名	19件
ウインターワークショップ・イン・神戸	SE	H15. 1. 23 (木) ~ 24 (金) 富士ゼロックスペースアルファ神戸	56名	47件
分散システム/インターネット 運用技術シンポジウム 2003	DSM	H15. 1. 30 (木) ~ 31 (金) 沖縄ハイツ	53名	22件
インタラクション 2003	HI, GN	H15. 2. 27 (木) ~ 28 (金) 学術総合センター	400名	93件

9.3 小規模国際会議（1回）

会議名	開催期間	参加者	開催地
第8回「高度応用のためのデータベースシステム」に関する国際会議 8th International Conference on Database Systems for Advanced Applications (DASFAA 2003)	H15. 3.26（水）～28（金）	139名	キャンパスプラザ 京都

10. 教育活動

10.1 情報処理教育委員会

情報処理教育委員会（委員長：大岩 元）は、主に電子メールを用いて活動を展開したが、平成14年12月には会合を開き活動計画等について検討を行った。ア krediteーションについては次項で述べるが、その他に、初等中等教育小委員会（委員長：大岩 元）は、「コンピュータと教育研究会」と協力して8月にシンポジウムを開催し、特に高校における情報教育に関する議論を行った。

また、『情報』教科の取り扱いについて、大学入試センターおよび国大協力に対し提言を行った。

10.2 ア krediteーション

ア krediteーション委員会（委員長：牛島和夫）は、JABEEの情報分野の検討組織として、昨年度行った認定試行を踏まえ、認定基準の検討や認定実施上の問題点の検討を行い、平成14年11月には岩手県立大学、12月には新潟国際情報大学における認定試行の審査を各試行審査団を設けて行った。その結果は平成15年3月の全国大会のア krediteーションセッションでも報告した。さらに、平成14年7月および10月には認定審査の審査員養成のための研修会を行った。

10.3 生涯教育

平成14年4月に生涯教育委員会（委員長：石田喬也）を発足し、年度内に委員会を6回開催し、企業環境面で十分な技術教育を受けてこなかった技術者を主な対象者とする教育について議論した。

10.4 資格制度

平成15年3月に資格制度委員会（委員長：大岩 元）を発足し、技術士部会、高度IT技術者（仮称）部会を設けて、資格制度に関する検討を行うこととした。

10.5 経済産業省委嘱調査

新エネルギー・産業技術総合開発機構が窓口となって経済産業省から受託した「技術分野別の認定審査試行調査（電気・電子・情報・通信分野）」の情報分野につき、ア krediteーション委員会が担当し調査研究を行った。

11. 国際活動

11.1 国際業務委員会

平成14年度中に6回開催し、主催・共催会議の開催申請、終了報告等について審議を行った。

委員長 東野輝夫

幹事 山本 彰

委員 増永良文（ACM担当）、山田昭彦（IEEE担当）

三上喜貴（SEARCC日本代表）、大岩 元、発田 弘、占部浩一郎（SEARCC WG）

11.2 IFIP 委員会

平成 14 年度中に 2 回開催し、IFIP の国内活動、WCC2002、GA2002 への対応を中心に企画・審議した。IFIP 委員に新たに GA2002 において Specialist Group (SG) として設立が承認された Entertainment Computing の中津良平 SG-chair 兼日本代表 (関西学院大) が加わった。また、IAPR 日本代表が江尻正員氏 (日立) から田島譲二氏 (NEC) に変更になった。

委員長	堀越 彌 (IFIP 日本代表)	狩野公太郎 (日本代表補佐)	
幹事	東野輝夫, 山本 彰		
委員	伊藤貴康 (TC1)	笈 捷彦 (TC2)	大岩 元 (TC 3)
	木村文彦 (TC 5)	齊藤忠夫 (TC 6)	亀田寿夫 (TC 7)
	内木哲也 (TC 8)	松本恒雄 (TC 9)	南谷 崇 (TC10)
	佐々木良一 (TC11)	堂下修司 (TC12)	黒須正明 (TC13)
	中津良平 (SG)	田島譲二 (IAPR)	樋口和雄 (JEITA)

11.3 IFIP 活動

- (1) WCC2002 が平成 14 年 8 月 25 日 (日) ~ 30 日 (土) にモントリオール (カナダ) で開催された。日本より keynote speaker として NTT ドコモ社長 立川敬二氏の講演があった。また WCC2002 後、平成 14 年 8 月 30 日 (土) ~ 9 月 3 日 (水) 同場所において GA2002 が開催された。
- (2) WCC2002、GA2002 には日本から堀越 IFIP 日本代表、狩野日本代表補佐および柳川事務局長が出席した。堀越 IFIP 日本代表は、今回は総会出席初めてということもあり、各国代表、各 TC 議長との交流を第一に優先し日本の存在をアピールしてきた。
- (3) IFIP の TC に、日本が発起人となって新しい TC を新設する計画であった Entertainment Computing について GA2002 で提案をした。その結果、委員のメンバーに他国からの委員が必要であることから Technical Committee (TC) 設立準備段階 (設立準備期間は 5 年以内) の Special Group (SG) として承認された。今後、5 年以内に各国へ委員選出をお願いする。

11.4 SEARCC 関係

平成 14 年 9 月 28 日 (土) ~ 29 日 (日) にマレーシアで SEARCC 理事会が開催され、東野輝夫国際担当理事が出席した。SEARCC に関連する組織としてアジア諸国を中心に AIC が組織された。

11.5 その他の国際活動

- (1) IEEE、IEEE-CS との協定の更新を行った (共に協定期限は 2005 年 12 月 31 日)。
- (2) 15 年 3 月の第 65 回全国大会において IEEE-CS 会長の Dr. Steve Diamond が招待講演を行った。
- (3) IEEE-CS と IPSJ の共催で、第 3 回国際会議 SAINT-2003 (The 2003 Symposium on Applications and the Internet) を、平成 15 年 1 月 27 日 (月) ~ 1 月 31 日 (金)、フロリダで開催した。
参加者 218 名 (約 50% が邦人) 論文 (大会) 56 件 (ワークショップ) 8 件

11.6 国際会議の開催

- (1) International Workshop on Entertainment Computing (IWEC2002) (共催)
開催日: 平成 14 年 5 月 14 日 (月) ~ 17 日 (金) 開催地: シャープ幕張ビル
委員長: 釜江尚彦 参加者: 119 名, うち海外 13 カ国 37 名
- (2) 2002 International Symposium on Empirical Software Engineering (ISESE2002) (共催)
開催日: 平成 14 年 10 月 3 日 (火) ~ 4 日 (木) 開催地: 奈良新公会堂
委員長: 鳥居宏次 参加者: 188 名, うち海外 12 カ国 38 名

11.7 協賛・後援等の活動

Joint 1st International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems(International Session of 18th SOFT Fuzzy Systems Symposium) and 3rd International Symposium on Advanced Intelligent Systems (SCIS & ISIS2002) (平成 14 年 10 月 21 日(月)~25 日(金), 日本ファジイ学会, 産業技術総合研究所) ほか 18 件。

12. 規格調査活動

12.1 国際活動の状況

12.1.1 JTC1 全体の活動

(1) JTC1 の今後

1) JTC 1-SGF 会議 (2002 年 6 月ニューヨーク)

JTC 1-SGF (Special Group on JTC 1's Future) 会議は JTC 1 の今後を検討するために 2001 年 10 月の JTC 1 ハワイ総会で設置され, 2002 年 3 月にはベルリンで, また 2002 年 6 月にはニューヨークで会議を開催した。

2) JTC1 総会 (2002 年 10 月ソフィア・アンティポリス(仏))

JTC 1-SGF 会議での提案は, その後の JTC1 内の投票と総会での議論内容を反映後, JTC1 の今後の対応方針として, 2002 年 10 月ソフィア・アンティポリス総会で確定した。

3) ISO 理事会と IEC 評議会への JTC1 のレスポンス

JTC 1 の上部機構である ISO, IEC の理事会からの JTC 1 の今後に関する決議に対するレスポンスとして JTC 1 標準とその活動の市場適合性 戦略的ビジネスプラン ICT イングストリの参画とサポートをカバーする内容とした回答を承認した。

(2) SC28 幹事国を日本に移管

従来 SC28 (オフィス機器) の Secretariat はブラジルが務めていたブラジルが, その後を日本 (社) ビジネス機械・情報システム産業協会(JBMIA) が引き受けることを申し出て JTC 1 総会 (2002 年 10 月ソフィア・アンティポリス) で承認された。

(3) SC37 (バイOMETRICS 技術) の新設

(4) 国際規格の出版状況

2002 年の国際規格の出版数は, IS 139 件, ISP 0 件, TR 10 件で合計 149 件 (2001 年: IS 79 件, ISP 0 件, TR 10 件で合計 89 件) で, 昨年に比べ 60 件 (67%) 増加したが, 内訳をみると前年度比で SC6 が 20 件, SC7 が 10 件, SC27 が 11 件, SC29 が 11 件増加した影響が大きい。一方で SC17 は前年度比で 11 件減少している。2002 年度に国際規格案となったものが FDIS (DIS を含む) 95 件, DISP 0 件, DTR 12 件で合計 107 件あり (2001 年 FDIS (DIS を含む) 64 件, DISP 0 件, DTR 14 で合計 78 件) 昨年に比べ 29 件 (37%) 増加したが, 内訳をみると SC6, SC22, SC32 の増加が目立つ。

12.1.2 情報規格調査会の国際活動

(1) 日本提案による国際標準化の推進

1) 日本が今年度提案した新業務作業項目 (NP)

ア. 学会試行標準で公開されたものを国際提案

「符号化文字基本集合 (BUCS)」は, 今年内に WG2 に最終案を提出する事になっている。

2) 日本が昨年度以前に提案した新規標準化提案項目の進捗状況

ア．XML

DTR 19758 Document Description and Processing Languages -- DSSL library for complex compositions

DTR 22250-2 Document Description and Processing languages -- Regular Language Description for XML (RELAX) -- Part 2: RELAX Namespace

(状況) 投票の結果は2件とも承認基準は満たしている。

イ．モバイルツール

FDIS18021 : Information Technology -- User interfaces for mobile tools for management of database communications in a client-server model

(状況) 2002-05-15 に出版された。

ウ．協調学習

Information Technology for Learning, Education, and Training -- Collaborative Technology -- Collaborative Workplace

(状況) CD 投票の結果, CD は承認された。2003 年末の FCD 化を目指す。

Information Technology for Learning, Education, and Training -- Collaborative Technology -- Agent/agent communication

(状況) NP が承認され, 現在, プロジェクトエディタ選定中。

Information Technology for Learning, Education, and Training -- Collaborative Technology -- Learner to learner interaction scheme

(状況) NP は承認された。2003 年中に CD 承認, 2004 年中に FCD 化を目指す。

(2) 国際活動における日本の主要な役割

日本が担当する役職数は, 欧州諸国に比肩する規模を維持している。

1) 議長, コンピナー, ラポータなど

2002 年度末においては, SC 2, SC 23, SC 28, SC 29 の議長, SC 7/WG 6, SC 32/WG 4, SC 34/WG 2, SC 35/WG 2, SC 35/WG 4, SC 36/WG 2 のコンピナー, SC 29/WG 1/JBIG, SC 31/WG 4/Application のラポータを日本が担当した。

2) プロジェクトエディタ

SC 6 (6 名), SC 7 (11 名), SC 11 (9 名), SC 22 (1 名), SC 23 (7 名), SC 27 (3 名), SC 29 (33 名), SC 31 (1 名), SC 32 (4 名), SC 34 (7 名), SC 35 (3 名), SC 36 (2 名) の計 87 名 (プロジェクト数 149) であった。

3) セクレタリアート

2002 年度末においては, SC 2 (当調査会), SC 7/WG 6 (当調査会, NEC), SC 23 (当調査会), SC 28 (JBMIA, キヤノン), SC 29 (当調査会), SC 36/WG 2 (当調査会, 日本ユニテック) の 6 つの国際事務局を担当した。

(3) 国際会議への参加

2002 年度は 238 回の会議が開催されたが, うち 207 回の会議に日本から 1,481 名が参加した (うち外国開催 187 回, 日本からの参加者 1,123 名)。なお, 当調査会がホストとなり日本で開催したものは 9 回であった。

12.2 国内委員会の活動状況

(1) 委員会等の開催状況

事業執行に関しては, 規格総会, 規格役員会, 運営委員会, 広報委員会および表彰委員会を計 22 回開

催した。技術活動のうち、JTC1全体に関する事項は、技術委員会、技術委員会/幹事会および技術委員会/DIS等調整委員会に対応し、SCへの対応は、専門委員会と関連する小委員会等が担当した。技術活動関係の委員会開催回数は、計401回であった。なお、技術委員会傘下の委員の総数は、重複を含めて1,233名、オブザーバは210名であった。

(2) 各専門委員会の活動の概況

1) 第1種専門委員会関係

JTC1の組織変更等に対応して、下記の国内委員会の組織の変更を行った。

ア. SC6専門委員会： 3つの委員会（メッセージングSG, WG6（私設通信網）, WG6/ブロードバンドSG）を解散するとともにPISNの分野を担当するPISNSGを設立した。

イ. SC7専門委員会： WG13（ソフトウェア測定プロセス）を解散するとともに、WG20小委員会を設立した。

ウ. SC32専門委員会： WG5（データベースアクセスおよび交換）を解散した。

エ. SC37専門委員会： 国際のSC37に対応するためにSC37専門委員会およびその傘下に暫定的にSG1からSG6を設立した。

2) 第2種専門委員会関係：

ア. 文字コード標準体系専門委員会

2002年3月に報告書を当調査会のホームページで公開し活動を終えた。今年度は残務整理を行い7月に解散した。

イ. 学会試行標準専門委員会

レスポンスリンクを担当するWG6小委員会を設立した。活動の内容としては、新たに4件のNPが技術委員会承認され、現在開発が行われている。

ウ. 文字情報データベース専門委員会（汎用電子情報交換環境整備プログラム）

経済産業省から委託を受けた「汎用電子情報交換環境整備プログラム」の文字情報データベースの開発を円滑に進めるため、当専門委員会を設立し、今年度は4回開催した。

3) 第3種専門委員会関係：

電算機プログラミング言語C++ JIS原案作成委員会は昨年より活動を継続し、また、新たにLAN-CSMA/CDアクセス方式及び物理層仕様（JIS X 5252）JIS改正原案作成委員会を設けて活動した。

12.3 その他

(1) 学会の全国大会における標準化活動の紹介

今年度は2003年3月に東京工科大学で開催された全国大会で、SC17専門委員会、SC31専門委員会、SC34専門委員会、SC37専門委員会が具体的な標準化活動の紹介を行った。

(2) 表彰

1) 情報規格調査会の表彰

ア. 標準化功績賞：2名

浅野 正一郎（国立情報学研究所）、箕 捷彦（早大）

イ. 標準化貢献賞：9名

浅井光太郎（三菱電機）、石畑 清（明大）、後藤志津雄（日立）、阪本秀樹（NTT）、篠木裕二（日立）、西山 茂（NTTアドバンステクノロジー）、森 宗正、山口純一（日本IBM）、山本 知（日立）

13. 関連学協会・日本学術会議関係

- (1) 電気・情報関連学会の「国際的情報発信源の可能性タスクフォース」および「アンブレラ型機構の在り方タスクフォース」の検討に参加し、各々の検討報告書を各学会会長宛に提出した。
- (2) 平成 15 年 1 月 31 日（金）に日本学術会議会議室において開催された、日本学術会議 3 研連代表と電気・情報関連学会役員連絡会に鶴保会長ほか 2 名が出席し、概況報告および前項の報告書の内容等に関する意見交換を行った。
- (3) 日本学術会議の平成 14 年度文部科学省科学技術研究費補助金の審査委員推薦に、とりまとめ学会として協力した。

14. 日本工学会・関連団体関係

- (1) 国の公益法人制度の抜本的改正の動きに対して、日本工学会からパブリックコメントが提出された。
- (2) 日本工学会の技術者生涯教育の検討委員会（PDE 協議会委員会）に参画した。
- (3) JABEE の委嘱を受けて、電子情報通信学会および電気学会と共同で、情報分野のアクレディテーションの本格審査を実施した。

15. 支部活動

15.1 北海道支部（支部長：栗原正仁）

- (1) 支部総会（平成 14 年 4 月 18 日（木）、於 北大、出席者 72 名（委任状 55 名を含む））
- (2) 情報処理北海道シンポジウム 2002（平成 14 年 4 月 18 日（木）～19 日（金）於 北大、参加者 250 名）
- (3) 支部大会・電気関係学会北海道支部連合大会（平成 14 年 10 月 12（土）～13 日（日）、於 北見工大、一般講演 334 件、参加者 449 名）
- (4) プログラミングコンテスト（平成 15 年 3 月 22 日）、講演会（10 回）
- (5) 幹事会（2 回）、評議員会（2 回）
- (6) 支部奨励賞、道内高専成績優秀者表彰

15.2 東北支部（支部長：根元義章）

- (1) 支部総会（平成 14 年 5 月 15 日（水）、於 東北大、出席者 192 名（委任状 172 名を含む））
- (2) 東北支部設立 30 周年記念事業
記念式典・講演会・祝賀会（平成 14 年 11 月 15 日（金）、於 メルパルク仙台）
プログラミングコンテスト（平成 14 年 11 月 2 日（土）、応募 35 チーム内上位 3 チームを表彰）
- (3) 電気関係学会東北支部連合大会（平成 14 年 8 月 27 日（火）～28 日（水）、於 山形大、一般講演 347 件、参加者 644 名）
- (4) 講演会（7 回）、研究会（4 回）、東北大学大学等地域開放特別事業後援
- (5) 役員会（1 回）、支部だより発行（3 回）
- (6) 支部奨励賞、学生奨励賞表彰

15.3 東海支部（支部長：阿草清滋）

- (1) 支部総会（平成 14 年 5 月 10 日（金）、於 愛知厚生年金会館、出席者 324 名（委任状 297 名を含む））
- (2) 東海支部設立 20 周年記念事業：記念式典・講演会・祝賀会（平成 14 年 5 月 10 日（金）、於 愛知厚

生年金会館，参加者 66 名)

- (3) 支部大会・電気関係学会東海支部連合大会（平成 14 年 9 月 19 日（木）～20 日（金），於 大同工大，一般講演 680 件，参加者 1,317 名）
- (4) 講演会（7 回），研究会他（11 回），講習会（2 回）
- (5) 評議員会（3 回），幹事会（5 回）
- (6) 学生論文奨励賞表彰

15.4 北陸支部（支部長：落水浩一郎）

- (1) 支部総会（平成 14 年 5 月 10 日（金），於 北陸先端大，出席者 117 名（委任状 100 名を含む））
- (2) 北陸支部設立 10 周年記念事業：3 会場におけるシンポジウム開催
 - ・石川会場 「ネットワークの可能性を探る」
（平成 14 年 10 月 17 日（木），於 石川ハイテク交流センター，参加者 153 名）
 - ・福井会場 「XML の IT 技術へのインパクトと今後の可能性」
（平成 14 年 10 月 25 日（金），於 福井大学，参加者 130 名）
 - ・富山会場 「バイオインフォマティクスの可能性を探る」
（平成 14 年 11 月 20 日（水），於 富山県総合情報センター，参加者 63 名）
- (3) 電気関係学会北陸支部連合大会（平成 14 年 9 月 18 日（水）～19 日（木），於 福井大学，一般講演 392 件）
- (4) 講演会（5 回），研究会補助（6 回），見学会（1 回），学生研究発表会
- (5) 幹事会・評議員会（4 回）
- (6) 優秀学生表彰

15.5 関西支部（支部長：富田眞治）

- (1) 支部総会（平成 14 年 5 月 17 日（金），於 新阪急ビル，出席者 422 名（委任状 400 名を含む））
- (2) 新支部大会：3 研究会合同開催（平成 14 年 11 月 1 日（金），於 大阪国際会議場，参加者 140 名，論文発表 53 名）
- (3) 関西情報関連学会連合大会（平成 14 年 7 月 23 日（火），於 大阪国際会議場，参加者 322 名）
- (4) 講演会（1 回），シンポジウム支援（2 回），環境知能研究会（3 回），ビジュアルインフォメーション研究会（4 回），VLSI 研究会研究会（3 回），セミナー（1 回）
- (5) 評議員会・幹事会合同会議（1 回），幹事会（5 回）
- (6) 学生奨励賞，特別奨励賞表彰

15.6 中国支部（支部長：山下英生）

- (1) 支部総会（平成 14 年 5 月 10 日（金），於 中国電力，出席者 175 名（委任状 145 名を含む））
- (2) 電気・情報関連学会中国支部連合大会（平成 14 年 10 月 19 日（土），20 日（日），於 島根大）
- (3) 講演会（9 回），講習会（1 回），見学会（3 回），研究会・シンポジウム（2 回）
- (4) 評議員会（3 回），幹事会（3 回）
- (5) 中国地区電気・情報関連学科優秀卒業生表彰

15.7 四国支部（支部長：村上研二）

- (1) 支部総会（平成 14 年 5 月 9 日（木），於 徳島大，出席者 79 名（委任状 65 名を含む））
- (2) 電気関係学会四国支部連合大会（平成 14 年 10 月 5 日（土），於 詫間電波工業高専）
- (3) 各大学による地域研究会（平成 15 年 3 月）

- (4) 講演会・見学会（7回）
- (5) 役員会（4回）
- (6) 支部奨励賞

15.8 九州支部（支部長：近藤弘樹）

- (1) 支部総会（平成14年5月10日（金），於 九大，出席者245名（委任状226名を含む））
- (2) 電気関係学会九州支部連合大会（平成14年9月26日（木）～27日（金），於 長崎大）
- (3) 火の国情報シンポジウム2003（平成15年3月6日（木）～7日（金），於 宮崎大）
- (4) 幹事会（5回），評議員会（1回）
- (5) 若手の会セミナー（1回），講演会等（13回），JABEEシンポジウム in 九州
- (6) 奨励賞表彰

16. 事務局

16.1 システム化による作業の効率化

16.2 職員数等

平成14年度中の職員の異動は，入社4名，退社3名で，年度末在籍者は31名（うち規格部門9名）であった。

以上